



地域日本語支援ニュース こだま 第 409 号

2021.9.23



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部: <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

==== 目次 =====

- 1 ■日本語教育相談から ■
- 2 ■進学進路ガイダンス情報 (9 月、10 月) ■
- 3 ■AJALT からのお知らせ ■

オンライングループレッスン (AJALT) のご案内

=====

- 1 ■日本語教育相談から ■

AJALT では地域で活動する日本語支援者のための「日本語教育相談」の窓口を設けています。各地から様々なご相談をお寄せいただいています。今号では、小学校で日本語指導員をされている方からのご質問と回答をご紹介します。

.....

◆相談内容

コロナ禍において、教室内ではマスク着用での対面授業が必須となりましたが、特に小学生くらいの年頃には、口元が見えない中での語学習得は非常に困難だと感じています。

AJALT の日本語教師の皆さんも同じような悩みを持たれているのではないかと、また何か体得したコツがあるのではないかと思います、質問させていただきます

した。これまでに無かったマスク着用での授業の工夫や、ポイントなどございましたらご教授くださいますよう、お願い申し上げます。

◆回答

ご相談ありがとうございます。

私も、コロナ禍における、年少者支援での環境の大きな変化に右往左往しており、支援者の皆さまの戸惑いには深く共感しております。コロナ以降、年少者の授業自体、実施数が少なくなっています。私自身と AJALT 教師会員の限られた経験ではありますが、何かお役に立てればと思い、回答させていただきます。

まず、私の経験ですが、昨年 4～6 歳の子ども 6 人と、8～10 歳の子ども 4 人に、グループレッスンを 1 時間ずつ数回したことがあります。すべて英語圏の子どもで、インターナショナルスクールがコロナで休校になった期間、フリースクールのような形で行いました。この時、教師はマスク着用、子どもたちはマスクなしでの参加でした。

◇マスクでいつもより落ち着かない

4～6 歳の子ども 6 人のクラスは、ほとんどの子どもたちが学習歴 1 年未満でした。小さい子どもたちは、授業中落ち着かなかったり、飽きてしまったりすることも多いです。教師がマスクをしていて顔がよく見えない、声がやや曇りがちになるせいか、いつにも増して、集中力が続かないと感じました。

そこで、以下のことを徹底いたしました。

- (1) 学習内容を盛り込み過ぎず、絞り込むようにする。
- (2) 今日の学習のテーマが何か、子どもに知らせる。
- (3) 絞り込んだ内容で、「聞く」「話す」「読む」「書く」「楽しむ」の活動を入れる。
- (4) 10 分から 15 分ごとに活動を変える。

例えば、次のように進めます。

- (1) 色の名前であれば、4 色ぐらいに絞りこみます。
- (2) 子どもたちに、今日の勉強は「色」であることを知らせます。
- (3) 折り紙を使って、色の名前を聞いたり、話したりします。

文字カードも使って読みをゲーム風に導入し、可能な限り書きをします。
さらに、袋に入れた野菜を触って当てるゲームをし、導入した色の言葉を使って、何色か言ってみます。

「楽しむ」活動は、折り紙で野菜を作ったり、色をテーマにした絵本を読んだりします。

(4) 60分の中で(3)の活動を10～15分ぐらいずつテンポ良く進め、一つの活動を長くやり過ぎないようにします。

◇マスクの下でゆっくり、丁寧に発音

8～10歳の子ども4人のクラスは、日本語学習歴1年からお母さんが日本人の子どもまで、言語的背景は様々でした。4～6歳までの子どものクラスより「読む」「書く」時間に重きを置き、長音（「おかあさん」など、母音を長く伸ばした音）や促音（「みっつ」など、小さな「つ」で表す音）の発音と表記に留意しながら進めました。長音や促音がうまくいかなかったり、その部分でアクセントの高低がずれてしまったりすることは、マスクをしていなくても常に起こります。いつもと同じように、手などを使ってアクセント、リズムを示しながら、マスクの下でゆっくり、丁寧に発音し、子どもに聞いてもらったところ、子どもたちは上手にまねてくれました。

日本の公立学校に在籍する小中学生に指導をしている会員にも、コロナ禍での工夫について聞いてみました。

◇マスク着用はそれほど気にならない

マスクをしていても、言葉の意味が明確に伝わるように、以下の点に注意しているとのことでした。

- ・ 動作やジェスチャーを大きくする、あるいは絵などを使って視覚化する
- ・ 以前より、文字カードなど書いたものを多く見せて、確認しながら進める
- ・ アクリル板で仕切られている場合は、教材を2つ用意し、子どもの手元にも置いて見やすく、わかりやすく学習できるよう配慮する

子ども対象の授業では、一つひとつの音について口元を見せて指導している

わけではありません。日本語の持つ特徴的なアクセント、イントネーションの流れを損なわず、そのまま聞いて体得してもらうことを心掛けています。ですから、マスク着用はそれほど気にならないという感想でした。

◇これまで以上に基本を丁寧に

つまり、マスク着用により、「何か体得したコツ」があるわけではなく、今まで以上に、年少者日本語教育の基本を丁寧に実践することが求められているのではないかと感じております。子どもたちに接していると、彼らの言葉を学ぶ力に感心することがよくあります。子どもたちのこの素晴らしい力を信じ、マスク越しですが、子どもたちと楽しくコミュニケーションしながら、この力を最大限引き出せていけたらと思っています。マスク着用による不安や戸惑う気持ち少しでも解消され、支援者の方々が、子どもたちと有意義な時間を過ごせるよう心から願っております。

(回答者：公益社団法人国際日本語普及協会所属教師 内田雅子)
